市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会　互選》

浜に寄する　波のごとしも　憂ひ事　ひとつ消えては　また打ち寄する
内田　龍子

同じこと　繰り返し云う　叔母と対き　老いゆく吾の　近未来かも
川浪　信子

露草は　消え去りにけり　朝毎に　地を這いて咲く　朝顔はやさし
栗原　瑛子

嬰児を　二度も失ひて　五十年　大師の御加護で　今日も生かさる
福島那智子

にぎり返す　手をまたにぎる　くり返し　君の意識が　もどりつつある
尾形　節子

俳句

《楷樹句会　互選》

眼のオペの　決まりし夜の　名月よ
不二見恵美子

百撰の　棚田を囲む　彼岸花
野田キヌ子

山合いの　荒家のありこぼれ萩
春田　泰子

無為の日々　重ねて老の日の短か
松尾　孤杖

夢追えば　たのしみ多し　敬老日
納富　芦風

川柳

《多久川柳会　互選》

向上心　摘んでいないか　過保護ママ
高塚チカ子

親の真似　何でもしたい　曾孫たち
木下　ユキ

雛寄せに　四苦八苦する　マニフェスト
冨安　正喜

夫婦ゲンカ　おたふく顔が　鬼女に見え
猪ノ口昭子

あったかい　母の手縫いの　チャンチャンコ
松下　修

教室紹介

多久市民大学「ゆい工房」

野の花アート

色があせにくく
埃も拭き取れる
野の花アートで
可憐な花を長く
楽しみましょう

◀柔らかな樹脂粘土で作った花、つぼみ、がく、葉などのパーツを組み合わせ、花作りを楽しむ受講生（ギャラリー三蔵堂で）

女性に人気の『野の花アート』教室は、樹脂粘土や油絵の具、ワイヤー、フラワーテープなどを材料に、本物そっくりの花作りを楽しむ講座です。講師の川﨑民恵先生（佐賀市在住）は、野の花アート師範で、多久市内にある『たのしき工房』でも教室を開き、週末の交流や自然の豊かさを創作活動に活かされています。3年目の今期も定員いっぱいの11人が受講。

ドクダミ草とブバリアを手掛け、10月22日の最終日は、白とピンク色のブバリアが仕上げられていました。受講者は「細かい作業で根気がいるけど、出来上がると嬉しい」と、講師は「花が好きな方なら初心者も歓迎。数をこなしただけ上達し、アクセサリーなどの加工も楽しんで！」と話し、どちらも来期が楽しみな様子でした。

人権教育 ともに生きる No.152

「結婚式」

久しぶりに結婚式に出席しました。二人の生まれた頃の写真や幼い頃の写真が上映されると、同世代の息子がいる私は自分の子どもと重なってしまい、今までいろんな人に可愛がられ、支えられて大きくなったんだなぁとちょっと涙ぐんでしまいました。式が始まると二十数年前の私の結婚式と随分変わっていました。司会者の言葉が、以前は「○○家」という言葉で始まりましたが、今は「○○様の御親戚の皆様」と変わっていました。受付の案内も「○○家」ではなく「○○様」でした。

以前の結婚はこの「家」にこだわったことが多く、私もこの「家」に泣かされました。三人姉妹の長女で生まれ跡継ぎとして育てられ、嫁いでいくということは「家」が途絶えてしまうということで父は結婚に反対でした。幸せになりたいのに、好きな人となんで結婚できないのか。「家」に縛られている父がとても理解できませんでした。（今はお互いに理解しあい、幸せに暮らしています）

結婚の時に住んでいる場所や家柄など、いろんなことに縛られて親が、親戚が、周りが認めず破談になってしまうことを今もたくさん耳にします。同和問題についても同じことが言えるのではないかと思います。周りの私たちの心が変わらなければ解決しない問題です。

多くの人に祝福されながらまた一組のカップルが誕生したことに嬉しく思いながら、すべての人が幸せになればいいなと思った結婚式でした。

社会教育指導員　野中久美子